

月報

国立国会図書館



シリーズ 被災地の図書館は今 (3)

世界図書館情報会議 第78回国際図書館連盟(IFLA)大会

図書館は今! ひらめきを、驚きを、活力を与えるもの

2012.12
No. 621

国立国会図書館利用案内

東京本館

所在地 〒100-8924 東京都千代田区永田町1-10-1
電話番号 03(3581)2331
利用案内 03(3506)3300(音声サービス)
ホームページ <http://www.ndl.go.jp/>
利用できる人 満18歳以上の方
資料の利用 館内利用のみ。館外への帯出はできません。
休館日 日曜日、国民の祝日・休日、年末年始、資料整理休館日(第3水曜日)
おもな資料 和洋の図書、和雑誌、洋雑誌(年刊誌、モノグラフシリーズの一部)、和洋の新聞、各専門室資料

サービス時間

開館時間	月～金曜日 9:30～19:00 土曜日 9:30～17:00 ※ただし、音楽・映像資料室、憲政資料室、古典籍資料室の開室時間は17:00までです。	即日複写受付	月～金曜日 10:00～18:00 土曜日 10:00～16:00 後日郵送複写受付★	月～金曜日 10:00～18:30 土曜日 10:00～16:30
資料請求受付★	月～金曜日 9:30～18:00 土曜日 9:30～16:00 ※ただし、音楽・映像資料室、憲政資料室、古典籍資料室の資料請求時間は16:00までです。			

★登録利用者限定のサービスです。

■見学のお申込み／国立国会図書館 利用者サービス部 サービス運営課 03(3581)2331 内線25211

関西館

所在地 〒619-0287 京都府相楽郡精華町精華台8-1-3
電話番号 0774(98)1200(音声サービス)
ホームページ <http://www.ndl.go.jp/>
利用できる人 満18歳以上の方
資料の利用 館内利用のみ。館外への帯出はできません。
休館日 日曜日、国民の祝日・休日、年末年始、資料整理休館日(第3水曜日)
おもな資料 和図書・和雑誌・新聞の一部、洋雑誌、アジア言語資料・アジア関係資料(図書、雑誌、新聞)、科学技術関係資料、文部科学省科学研究費補助金研究成果報告書、博士論文

サービス時間

開館時間	月～土曜日 10:00～18:00	即日複写受付	月～土曜日 10:00～17:00
資料請求受付★	月～土曜日 10:00～17:15	後日郵送複写受付★	月～土曜日 10:00～17:45
セルフ複写受付	月～土曜日 10:00～17:30		★登録利用者限定のサービスです。

■見学のお申込み／国立国会図書館 関西館 総務課 0774(98)1224 [直通]

国際子ども図書館

所在地 〒110-0007 東京都台東区上野公園12-49
電話番号 03(3827)2053
利用案内 03(3827)2069(音声サービス)
ホームページ <http://www.kodomo.go.jp/>
利用できる人 どなたでも利用できます(ただし第一・第二資料室は満18歳以上の方)。
資料の利用 館内利用のみ。館外への帯出はできません。
休館日 月曜日、国民の祝日・休日(5月5日こどもの日は開館)、年末年始、資料整理休館日(第3水曜日)
※第一・第二資料室は、休館日のほか日曜日に休室します。メディアふれあいコーナーと本のミュージアムは、行事等のため休室することがあります。
おもな資料 国内外の児童図書・児童雑誌、児童書関連資料

サービス時間

開館時間	火～日曜日 9:30～17:00	※1階子どものへや、世界を知るへや、3階メディアふれあいコーナー、本のミュージアムの利用時間は、開館時間と同じく9:30～17:00です。		
第一・第二資料室の利用時間	閲覧時間	火～土曜日 9:30～17:00	資料請求受付	火～土曜日 9:30～16:30
複写サービス時間	即日複写受付	火～日曜日 10:00～16:00	後日郵送複写受付	火～日曜日 10:00～16:30
	複写製品引渡し	火～日曜日 10:30～12:00 13:00～16:30		

■見学のお申込み／国立国会図書館 国際子ども図書館 03(3827)2053 [代表]

02 図書館 戦後青少年に向けた本

今月の一冊 国立国会図書館の蔵書から

04 シリーズ 被災地の図書館は今 (3)

05 福島県における図書館の復興と課題

10 図書館は今! ひらめきを、驚きを、活力を与えるもの

世界図書館情報会議 第78回国際図書館連盟 (IFLA) 大会

24 数字で見る国立国会図書館 『国立国会図書館年報 平成23年度』 から

23 館内スコープ

上野の森にて

26 本屋にない本

○『天狗推参! 特別展』

27 NDL NEWS

○平成24年度国立国会図書館長と大学図書館長との懇談会

28 お知らせ

- 「歴史的音源」の追加提供と憲政資料の「国立国会図書館デジタル化資料」への追加
- オンライン資料制度収集説明会
- 平成24年度アジア情報研修
- 平成24年度児童サービス協力フォーラム
- 本の万華鏡 (第11回) 「はやり病あれこれ」
- 新刊案内 国立国会図書館の編集・刊行物

34 『国立国会図書館月報』 年間索引

図書館 戦後青少年に向けた本

鈴木 宏宗

写真1



写真2



写真3

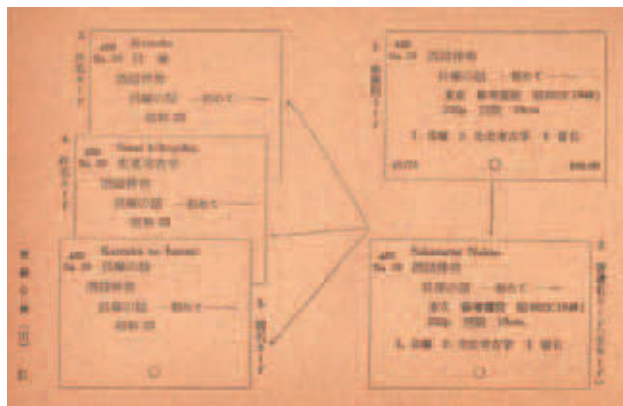


写真1 岡田温肖像（昭和20年代）
岡田温先生喜寿記念会 編・刊『岡田先生を囲んで 岡田温先生喜寿記念』（図書館の歴史と創造 1）1979 p.67より。

写真2 『図書館』扉（3/120コマ）

岡田^{ならう}温（1902-2001）（写真1）は、東京帝国大学卒業後、1928年から帝国図書館に勤務し、同時に図書館講習所で図書館史などの講師も務め、国定国語教科書『小学国語読本 巻九』（1937年）「第十七 図書館」を同僚と一緒に執筆している¹。戦後は1948年5月に国立国会図書館に移り、整理局長、同部長、司書監等を歴任している。扉の肩書には整理局長（写真2）とあるが、刊行された年には整理部長の職にあった。退職後には図書館短大、東洋大学、鶴見大学で図書館学教育に携わっている。

本書は終戦後に青少年向けに刊行されたものの、図書館を理解する上で歴史と現状のバランスが取れた内容で、大人にも十分参考になる。著者のそれまでの図書館勤務の経験と知識に基づいて書かれており、今でも十分読み返すに足る一冊であろう。

まず、山村や小都市、大都市に、このような図書館があったら便利で都合がよいという、当時の理想の図書館像を描き、続けて、図書館の任務、種類、仕事、歴史と各国の状

況を述べている。

「図書館の任務」では「利用のしかた」の項を立て、図書館の利用者が「ひとにたよらず、自分で探し求める」ことの重要性を説いているのが利用者教育として見て興味深い。

図書館の仕事として、本の蒐集から提供、読書会や展覧会、総合目録までを一通り記しており、なかでも本の整理、今でいう資料組織化に比較的多くのページを費やしている。事務用カードと、著者名カード、件名カード、参照カードなどの例が示されている（写真3～5）。さらに、辞書体目録の重要性と日本国内ではそれが普及していないことを指摘している。

「図書館の歴史」では、古代メソポタミアから始まる西洋と図書館を筆頭にする日本の図書館史とを叙述している。巻頭の見返しにライデン大学図書館（写真6）が、巻末の見返しには昌平坂学問所の絵図（写真7）が掲載されて、図書館史を重視しているように見受けられる。

最後の「むすび」では、読者が図書館の良き利用者とな

写真4

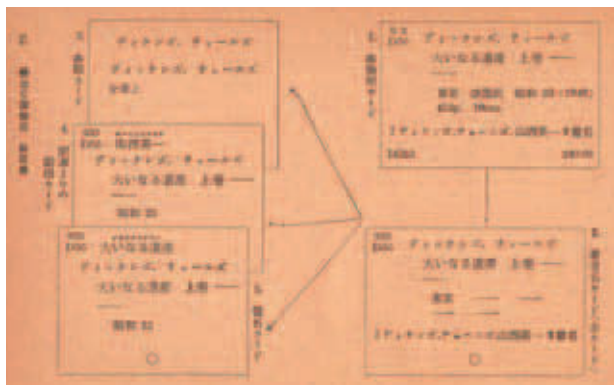


写真5

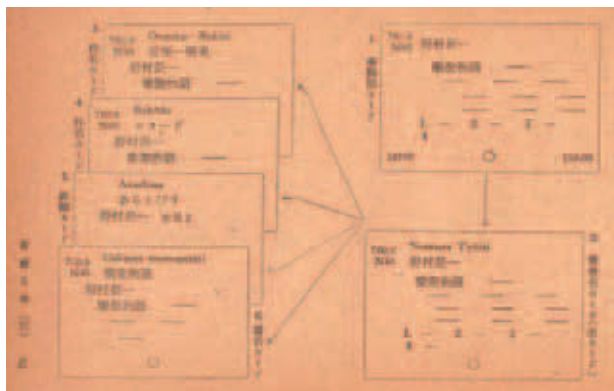


写真3 「図書館」に掲載されている事務用カードと、著者名カード、件名カード、参照カード等の例示。写真3は p.77、写真4はp78、写真5はp.79(写真3は47/120コマ、写真4と5は48/120コマ)。写真6 17世紀の絵で図書館の歴史の本に比較的良好に引用される(2/120コマ)。

写真7 国立国会図書館所蔵「聖堂総絵図」<請求記号 245-138>をもとにしており、帝国図書館の蔵書印と受入印も写されている(119/120コマ)。

写真6

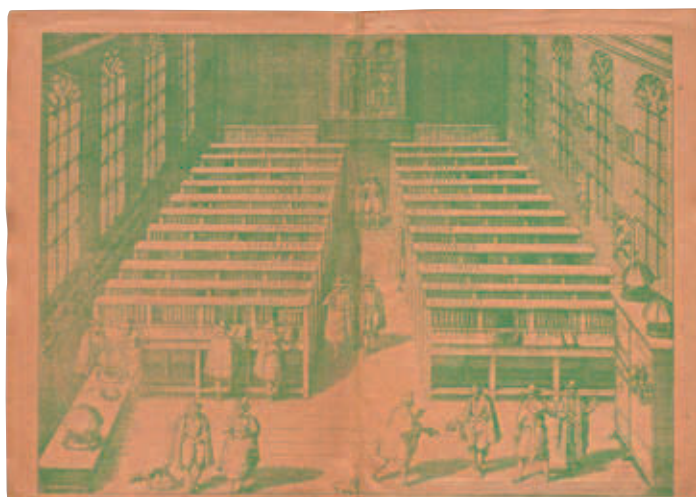
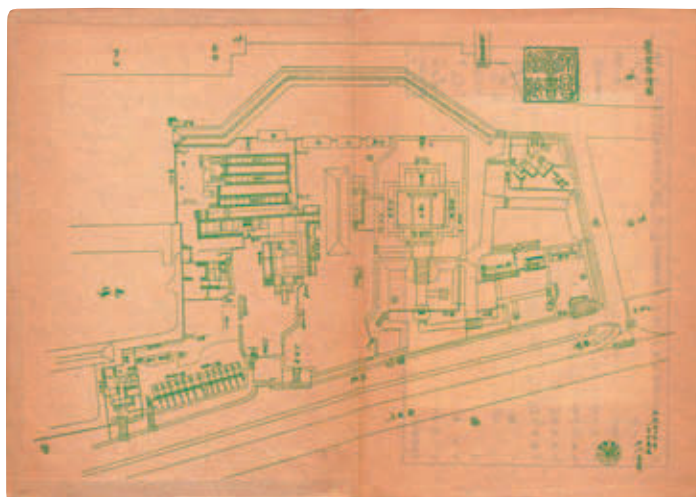


写真7



ること、さらに一部の読者が図書館員になるかもしれないことを期待し、そのようになったときに、ともに協力して立派な図書館を作り上げてほしいと望み、図書館が決して図書館員のみでは立派になるものではなく、国民全体の意気が必要だと記している。その背景には著者が勤めていた上野の帝国図書館の建物が、1899年から建築がはじまったにもかかわらず、半世紀後にも計画の「半建て」のままであることにみられるように、欧米の国立図書館にくらべて十分な発達を遂げられていなかったという思いがうかがえる。

本書の受容について探してみると次のような文献が見つかる。1951年に小倉親雄は「本書を一読して何よりも読者の心を動かすのは、……青少年に対する深い愛情と、図書館人としての覚悟であり、その懇切な記述を通じて必ずや著者が期待しているように将来本書を愛読した多数青少年の中から、優れた図書館人が生れて来ることであろう」と紹介している²。回想されたものでは、紀田順一郎氏が

1950年6月ごろの中学三年生のクラスメートが何を読んでいたかを列記している中に、本書を男女各1名があげているのが見出せる³。岡田温への卒寿記念文集で、竹内愼、平塚禅定の両氏が、それぞれ図書館学を教える教育の現場で役に立ったことに触れている⁴。社会科文庫の一冊として、刊行された頃はそれなりに読まれていたのではないかとうかがえる。その後、1954年には同じ出版社から社会科文庫選集の一冊として刊行された<請求記号 010-O447t>。

(すずき ひろむね 利用者サービス部政治史料課)

岡田温 著『図書館』(社会科文庫 E6) 三省堂出版 1949
<請求記号 児01-O> ※ 国際子ども図書館所蔵
「国立国会図書館デジタル化資料」でインターネット公開。
<http://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/1168200>

- 1 岡田温「図書館教育の百年」(『現代の図書館』第7巻 第1号 1969. 3 pp.10-17) p.16によると、松本喜一帝国図書館長の命により、同館に勤めていた岡田温と舟木重彦が作成したという。
- 2 「図書館文献紹介」『図書館界』第11号 p.151 (稲村徹元 監修『図書館関係文献目録集成 戦後編 (1945～1969) 第1巻』(文庫文献類従 3-1) 金沢文庫閣 2002 p.071)
- 3 紀田順一郎 著『最初の一冊』三一書房 1981 pp.195-196
- 4 岡田温先生卒寿記念会 編・刊『百福自集』1992 pp.24-25, p.89

シリーズ 被災地の図書館は今 (3)



写真1 福島県立図書館 東日本大震災 福島県復興ライブラリー（平成24年10月）

国立国会図書館では、毎年、「国立国会図書館長と都道府県立及び政令指定都市立図書館長との懇談会」を実施し、当館の活動報告や情報・意見の交換を行っています。今年7月5日に行われた会議では、岩手県、宮城県、福島県および仙台市から被災地支援の取り組みや、復旧・復興の現状について報告がありました。

本誌既刊号（617（2012年8月）号、620（2012年11月）号）で、宮城県、岩手県の復興の取り組みや現状についてお知らせしましたが、今回は、福島県立図書館職員の方に上述会議の報告内容を本誌でご紹介いただきます。

東日本大震災を振り返れば、一口に「被災地」と言っても、地域によって被害の内容や状況、また、震災発生から現在に至るまでの復旧・復興状況、それに基づく支援ニーズもまったく異なっています。岩手県、宮城県とは異なる、福島県内の図書館の状況について、多くの読者の皆様に知っていただきたいと思います。

大規模な災害はこれからも発生する可能性があります。求められる支援の内容、支援を効果的に行う方法、図書館にできることなど、まだ多くを考え続けなければならず、それは図書館に関わるすべての人の課題でもあります。私たちはこれからも被災地の図書館の声に耳を傾け、復興の過程に目を凝らしていかなければならないのではないのでしょうか。

福島県における図書館の復興と課題

福島県立図書館 吉田 和紀

平成24年4月28日、福島県立図書館は全面的にサービスを再開した。昨年7月より、施設の一部を活用し、部分的なサービスを実施してきたが、ようやく震災以前の状態に戻ったことになる。除染に伴う芝生の張り替え作業などは引き続き行われ、外観を含めた全ての復旧は2ヶ月後の6月末であった(写真1)。

県立図書館の被害は、県内でも比較的大きな方で、完全復旧までに1年以上を要した(写真2)。しかしながら、元の姿に戻ったのはサービス体制と建物・設備の環境であり、利用の実情までを伴ったものとはなっていない。震災前の平成22年度上半期と、平成24年度上半期との、主な利用統計を比較すると、「入館者数」(35%減)、「貸出利用者数」(32%減)、「個人貸出冊数」(34%減、児童にあっては42%減)、「レファレンス件数」(38%減)、「相互貸借貸出件数」(28%減)と、概ね30%から35%の減少となっている。

平成24年9月現在、59,000人の県民が県外に避難をしている。ピーク時から3,000人ほどが戻っているが、この状況は、少なからず図書館活動に影響を与えたと思われる。ここで懸念されるのは「図書館ばなれ」である。それまで、生活の中に存在していた図書館は、震災後の生活環境の変化や、図書館の長期休



写真2 福島県立図書館公開図書室(平成23年5月)



写真3 新地町図書館外観:震災後(平成23年3月11日)

館と相まって、生活サイクルの外に押し出された感は否めない。事実、平成23年度の県内図書館の貸出総冊数は、前年度比の83%となっている。住民生活に欠かせない図書館の姿を、改めて考え直す機会なのかもしれない。

県内における被災状況であるが、ほとんどの図書館が、地震によりなんらかの被害を受けたものの、その運営までを左右する被害は少なかった。多くの図書館が平成23年5月末までには再開をしている。津波に関しては、宮城県境にある新地町図書館(複合施設・2F)で一部浸水が見られた事例があるだけで、その他の被害は皆無であった(写真3、4)。こうした被災状況に反し、多くの図書館の再開が長引いた理由の一つには、図書館職員である前に自治体職員としての、復興業務遂行という責務があった。

資料についても、多くが落下したことから、汚損等は免れなかったが、運営に支障をきたすものではなかった。しかしながら、資料の排架や補修に係る作業に多くの労力が割かれたことは事実であり、それらは、他県に見られたボランティアの活躍とは違い、職員を中心に行われた。

現在、図書館活動の再開を待つのは、沿岸部の、原発事故に伴う避難自治体のみとなっている。「浜通り」と呼ばれるこの地区には13の自治体があり、現在でも7つの自治体が避難を続けている。ここには4つの図書館が存在するが、避難先において独自の図書館活動が行えるまでには至っていない。図書館職員は、自治体職員としての職務に専念しており、組織の中での図書館機能は消えている。住民に対しては、避難先自治体の図書館を活用することを奨励しているのが実情である。受



写真4 新地町図書館外観:現在(平成24年9月8日)

入自治体にあっても、登録および貸出しに関しては、市民と同様の対応をしている。

こうした中、本年8月、浪江町が、避難先の福島市内に、仮設図書館「なみえin福島ライブラリーきぼう」を開設した(写真5、6)。木造平屋造、約70㎡の建物で、全国から寄せられた義援金により建設されたものである。蔵書は約3,000冊で、近隣の市民にも開放している。開館時間は午前10時から午後4時と短い、利用する住民の現状を踏まえたものと考えられる。運営と管理のため2名の担当者(司書1名)を配置している。

また、飯舘村では、避難先に設置した仮設住宅や仮設校を巡回する移動図書館「こあら号」を12月中に稼働させる予定である。車両は、オーストラリア外務貿易省「豪日交流基金」と、アイアンサイド高校の協力により贈られたもので、

1,000冊の積載が可能である。全国から寄せられた資料の他、公民館図書室の資料も使用している。資料保管場所の空間線量に問題のないことから、特に除染について意識はしていないが、除菌等のため、4ヶ月ほどをかけ、使用する35,000冊の表面を消毒液等を使い、拭いた。

資料の除染については、現在大きな問題としては捉えられていない。それは、他の地区より線量が高い福島県内にあっても、再開している図書館、あるいはその利用者からの声として出されていないことからわかる。しかしながら、現在避難をしている自治体が、地元での活動を再開するにあたっては、無視することはできないであろう。

県立図書館としても、社会情勢に鑑み、積極的周知に努めることはないが、関連するデータを収集し、提供できる環境を整えることは必要である



写真5
なみえin福島
ライブラリー
きぼう（外観）
（平成24年
10月19日）



写真6
なみえin福島
ライブラリー
きぼう（館内）
（平成24年
8月31日）



浜通り13自治体のうち、避難中の7自治体（オレンジ色）

と考えている。提供する情報の一つとして放射線量があるが、資料の表面線量の基準を明確としたものは無い。「警戒区域」への一時立ち入りの際、持ち出し手荷物の目安は12,000cpmとされた。大熊町のオフサイトセンターからの持ち出し資料の線量はその半分の6,000cpmであったとの報告もあるが、数値から受ける印象には個人差があり、一つの数値だけで判断することが安心の基準とは成り得ない。そのため、他地区のサンプル調査の実施と比較についても検討を進めているが、使用する機器や方法の統一化など課題は多い。

このように、福島県内における図書館の再開状況は一定ではない。復興の道筋さえ見えない自治体も存在する。こうした中で求められるものは、

市町村間の連携強化と考えている。この震災では、横の連携や地区の連携による情報の共有化という部分で不安を残した。福島県の図書館界が一つとなり、ネットワークが再興されることを強く願うところである。

（よしだ かずのり）

図書館は今！

ひらめきを、
驚きを、
活力を与えるもの

世界図書館情報会議 第78回国際図書館連盟（IFLA）大会



IFLAは、1927年に創設された図書館および情報サービスに関する世界最大の組織です。テーマ別に設けられた40以上の分科会や、資料保存コア活動、著作権等法律問題といったStrategic Programmesなどを通じて、世界の図書館界の様々な課題に取り組んでおり、毎年1回、世界各国で大会を開催し、活動報告、意見交換や交流活動を行っています。

2012年の開催地は北欧フィンランドの首都ヘルシンキ。8月11日から17日にかけて、「世界図書館情報会議 第78回国際図書館連盟（IFLA）大会」が開催されました。「図書館は今！ ひらめきを、驚きを、活力を与えるもの」のテーマの下、114か国から4,167名が参加し、国立国会図書館からも代表団8名が参加しました。

8月12日の開会式は、フィンランドの民族音楽の歌唱で始まり、IFLA会長イングリッド・パラン氏による開会挨拶¹、ヘルシンキ市長からの歓迎挨拶、コソボ他国際紛争の法医学調査に参加された経験のあるフィンランドの法歯学者、ヘレナ・ランタ氏による基調講演が行われました²。ランタ氏は、過去から現在に至る戦火の歴

史の中で数多くの人命とともに文化遺産が失われてきたことを指摘し、文化遺産保護の重要性を訴えました。

8月13日には、世界の国立図書館長が集う第39回国立図書館長会議（CDNL）が開催されました。

期間中は、80を超える公開の分科会セッションやワーキンググループ会合、86の各国図書館団体や関連企業等が出展する展示会、196のポスターセッション等が開かれました。また、大会に合わせて常任委員会等の役員会が開かれたほか、20のサテライトミーティングがヘルシンキ市内や近隣諸国で行われました。

8月16日の閉会式では、2013年の大会開催地シンガポールによる招待挨拶があり、続いて2014年の大会がリヨン（フランス）で開催されることが発表され、盛況のうちに大会は終了しました。

（国立国会図書館IFLAヘルシンキ大会代表団）

1 Libraries—A Force for Changes: Inspiring, Surprising, Empowering.
(<http://conference.ifla.org/past/ifla78/70-parent-en.pdf>)

2 Defending Cultural Heritage — Defending Humanity
(<http://conference.ifla.org/past/ifla78/70-ranta-en.pdf>)

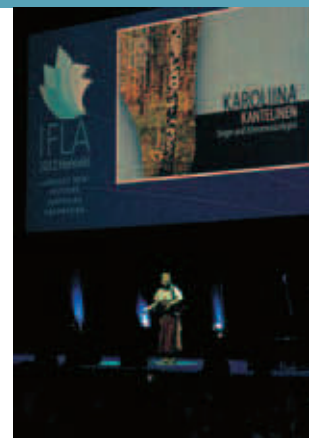
OPENING



開会式場の様子

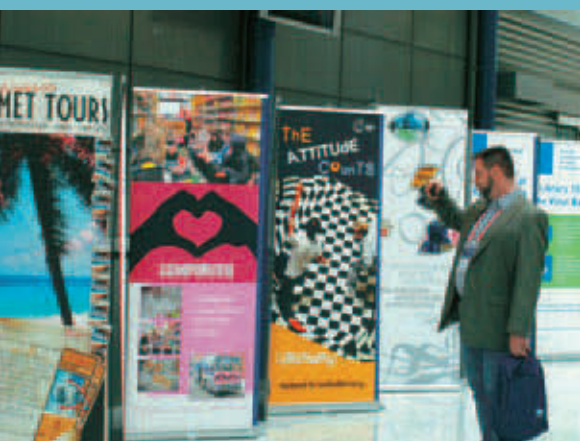


パラン会長挨拶



民族音楽の歌唱

EXHIBITION



現地図書館や関連イベントの紹介ポスター



ポスター・セッション（東日本大震災被災復興支援活動に関する日本図書館協会からの報告）



ヘルシンキ市立図書館（バシラ図書館）

EVENT



文化のタベ



2013年開催地シンガポールからの挨拶

CLOSING



2014年大会開催地はリヨン

共通する課題に取り組む世界の国立図書館

国立図書館長会議、国立図書館分科会



戦争・紛争などの人災に焦点をあてた報告がありました。それを受けた議論の中で、マリの文化財保護の必要性に関してCDNLとして声明を出すこととなり、急遽案文が起草され、会議の最後で決議されました。

来年の会議では、防災計画等、関連するマネジメント上の課題が取り上げられる予定です。このほかに、いくつかの国立図書館において公文書館との統合の動きがあることが話題となり、来年のディスカッションのテーマの一つに想定されています。

(1) 第39回国立図書館長会議（CDNL）

8月13日に開催された今年の国立図書館長会議（CDNL）には、53か国の国立図書館長（代理を含む）が出席し、国立国会図書館からは館長の代理として山口広文調査及び立法考査局長が参加しました。

昨年までの間に2度にわたり、英国図書館が中心となって世界各国の電子出版物の法定納本に関する調査等を実施しました。そのまとめとして、各国立図書館が電子出版物の納本に必要な法制化を自国政府に働きかけていく際に役立つ基礎資料の作成が進められており、本年の会議で英国図書館からその素案が提示されました³。会議後にCDNLメンバーからの意見を募り、確定させた後にCDNLのホームページにおいて公表する予定です。

また、文化遺産の損壊と保護について、今回は

さらに、①「オープンアクセス」、②「予算削減と戦略」、③「CDNLのデジタルライブラリーに関するビジョン改訂」の3つの小グループに分かれての議論も行われました。日本が参加し、フランス国立図書館長が司会進行を務めた②「予算削減と戦略」では、フランス、イギリスをはじめとする欧州のいくつかの国立図書館が、過去に経験のない厳しい財政状況にある中で、デジタル化に焦点をおいてプライオリティー意識を持って取り組み、将来にわたって国立図書館が社会・国民にとって重要な存在であり続けるべく努力していることが明らかになりました。

(2) IFLA 国立図書館分科会

15日にはIFLA国立図書館分科会の主催により、オープンデータ、特にメタデータの公開をテー

マにセッションが行われました。基調報告としてドイツ国立図書館長から、自館のデータのオープン化を例に取り、その意義と今後の方向性、また、各機関が提供するメタデータを、自由利用が可能なパブリックドメインライセンスの下提供するEuropeanaの取り組みの紹介がありました。続いて、フランス、ニュージーランド、スコットランドから事例報告が行われました。

CDNL、IFLA国立図書館分科会ともに、当館でもその多くを共有する重要課題に取り組み、真剣な議論・意見の交換が行われていました。図書館関係の国際会議は数多く開催されますが、この会合は、立場を同じくする世界の国立図書館幹部が年に一度、一堂に会する特別な場であり、大変貴重な機会であることを改めて感じました。

(ローラー ミカ 総務部企画課長)

3 本誌597(2010年12月)号、609(2011年12月)号参照。



IFLA大会本会場

議会と国民を結ぶ

議会のための図書館・調査サービス分科会

(1) プレコンファレンス

議会のための図書館・調査サービス分科会(以下、議会図書館分科会)第28回プレコンファレンスは、8月8日から10日までの3日間、ヘルシンキにあるフィンランド議会議事堂別館において開催されました。



国会議事堂前にて

テーマは「議会図書館 - 議会と市民に力を与えるもの」⁴です。72の国・地域から180名近くの参加者がありました。

会議ではまず、フィンランド議会図書館スタッフから、同館の概要、議員に対する調査サービス、フィンランドの憲法・政治制度について説明がありました。また、フィンランド議会の委員会の一つである「未来委員会」委員長を務める現職国會議員が、同委員会の活動報告を行いました⁵。

議会と国民を結び付けることは、最近の各国議会図書館の重要な課題となっています。プレコンファレンス後半は、「議員を支援する調査サービスの革新」「一般市民に対する図書館・情報サー

ビスの革新」を個別テーマに据え、チリ、ノルウェー、ニュージーランド、ギリシャ、スウェーデンの各議会図書館およびイギリス議会文書館からの報告が行われました。議会文書のデジタル化やそれらを提供するためのタブレット端末の活用など、情報通信技術（ICT）の積極的活用の具体例⁶、さらに市民に対し議会の役割や活動についての知識を向上させるための取り組み「議会アウトリーチ活動（Parliamentary outreach）」が紹介され、各国から活発な質問と意見交換が行われました。

うちみ かずみ
(内海 和美)

調査及び立法考査局議会官庁資料課)

(2) IFLA大会

本大会における議会図書館分科会のオープンセッションは、「議会図書館 民主主義を強くするもの」をテーマに8月13日午後に開催されました⁷。

ここで筆者は、「東日本大震災と国立国会図書館の国会に対する調査サービス」と題し、大震災・原発事故

に関連して当館が行った一連の国会向け調査業務について報告しました⁸。具体的には、震災直後に震災調査特別班を設け



議会図書館分科会における報告

て調査活動の推進・調整を行ったこと、国会に設置された原発事故調査委員会の活動にも寄与したこと、関連の議員向け刊行物を多数出版したことなどを紹介しました。

大震災の際には、当館の書庫でも多数の本が書架から落ちて床に散乱しました。その様子を大画面でお見せし、それでも速やかなサービス再開のために、職員総出で短期間で復旧したことも紹介しました。全体にインパクトがあったらしく、発表後に何人かの方から質問をいただいたり、声をかけられたりしました。

同じセッションの中では、イギリス議会では2008年以来、議会の仕組みや意義などについて市民の知識や関心を高めるため、全国的なアウトリーチ活動を展開しており、2011年には522回のイベントを開催して2万人以上の参加者を得たという、イギリス議会下院事務局からの報告がとりわけ印象的でした⁹。

議会図書館分科会ではこのほか、他の分科会とのジョイントセッションも行われました。

法律図書館分科会、政府機関図書館分科会および官庁出版物分科会とは複数のジョイントセッションが行われ、「法へのグローバルアクセスを促進する」というセッションでは、公的で信頼に足る法律関係情報にネットでアクセスするためのインデックス開発について、各国の大学やフィンランド司法省などからの報告がありました。また、別のセッションでは、市民に対し理解しやすい法律情報や法律テキストのデータベースを提供するプログラムについて紹介を行ったチリ議会図書館

からの報告もありました。加えて、アメリカの連邦政府刊行物寄託図書館制度（FDLP）が、予算削減等の影響で、存続の危機に立たされているというペーパーもありました。

情報技術分科会とのジョイントセッションでは、モバイルを用いた図書館情報や図書館資料の遠隔利用について、各国の大学図書館、国立図書館、議会図書館などからの報告がありました。

プレコンファレンスのテーマにもありましたが、議会図書館の市民サービスが今回のトピックの一つになっており、議会情報へのアクセスや議会図書館の一般開放に関する報告が多く見られましたが、上述のイギリス議会の取り組みは、そういったレベルをも超えているといった印象を受けました。

（やまだ くにお 山田 邦夫 調査及び立法考査局主幹）

書誌データのオープン化

書誌分科会



書誌分科会常任委員会

書誌分科会常任委員会では、全国書誌¹⁰に係るガイドライン『デジタル時代の全国書誌』¹¹の改訂を中心に討議を行いました。今後は、ガイドラインに則した各国の全国書誌の事例を蓄積・紹介し、全国書誌作成機関等からフィードバックを求め、また、全国書誌のLinked Open Data¹²としての公開を推進する方向で改訂を進めていきます。改訂版は、現行版のような冊子体ではなく、書誌分科会のウェブサイトを通じて提供していく予定です。

国立国会図書館からは、2012年1月から全国書誌の提供方法を変更したこと、上記ガイドラインの日本語訳を作成し公開したこと等について報告しました。

書誌分科会はオープン・セッションにおいても「デジタル時代の全国書誌」をテーマとしました¹³。最後に常任委員会からガイドライン改訂

4 Parliamentary libraries – empowering parliaments and citizens (<http://lib.eduskunta.fi/Resource.phx/library/conference/index.htm>)

5 Committee for the Future (<http://lib.eduskunta.fi/dman/Document.phx?documentId=ni22212112020518&cmd=download>)

6 会場では、議会図書館スタッフ向けにICT活用術や役立つ情報をまとめた『ハンドブック：議会図書館における情報通信技術 (Handbook: Information and Communication Technologies in Parliamentary Libraries)』が参加者に配布された。議会図書館分科会、列国議会同盟および国連経済社会局がまとめたものだが、議会におけるICTグローバルセンターのウェブサイトからも見ることができる。
(<http://www.ictparliament.org/handbook-libraries>)

7 Session 106 — Parliamentary libraries: strengthening democracy — Library and Research Services for Parliaments (<http://conference.ifla.org/past/ifla78/session-106.htm>)

8 <http://conference.ifla.org/past/ifla78/106-yamada-en.pdf>

9 <http://conference.ifla.org/past/ifla78/106-cowan-en.pdf>

の方向性を提示し、今後のフィードバックへの協力を呼びかけてセッションを締めくくりました。

オープン・セッションの中でひとときわ目を引いたのは、国立図書館分科会による「国立図書館とオープン・データ」をテーマとしたものでした。特に、フランス国立図書館からの蔵書目録とデジタル資料を統合的にLinked Open Data として提供するプロジェクト“data.bnf.fr”についての発表、また、ドイツ国立図書館からのクリエイティブ・コモンズCC0ライセンス¹⁴による書誌データおよび典拠¹⁵データのLinked Open Dataでの提供についての発表では、国立図書館がデータを

誰でも自由に利用できるようオープンにしていくことの重要性が強く主張されました¹⁶。

なお、IFLA 閉会後には、エストニアの首都タリンにおいて2日間にわたって開催された分類・索引分科会のサテライト・ミーティングに参加しました。「図書館を越えて デジタル環境とセマンティック・ウェブにおける主題メタデータ」をテーマに、分類や件名標目等について、Linked Open Dataとしての提供、フィクションやデジタル・コレクション等多様な資料群への適用事例等の発表がありました¹⁷。Linked Open Data は確かに重要であるが、そこでの統制主題語彙の重要性が失われるものではない、という分科会委員長の結びのことにば深くうなずいて、全日程を終えました。

おとしば ただひこ
(大柴 忠彦 収集書誌部収集・書誌調整課)

あおぞら食堂

ヘルシンキ市郊外にある大会会場周辺は宿が少なく、食事をする場所も限られます。そのため、参加者の多くは市の中心部に滞在して電車やトラムで会場に行き来していました。ヘルシンキ中央駅を利用する参加者の間で話題になったのが、こちら。駅前の一等地に置かれた巨大テーブルを囲む人々の前には美味しそうな料理が並び、安全ベルトを身につけたウェ이터がグラスにシャンパンを注いでいます。何やら素敵な音楽まで流れはじめたと思ったら、テーブルが静かに上昇を始めました。聞けば、クレーン車で地上40メートルの高さまで吊り上げるのだとか。北欧の澄んだ空の真ただ中で乾杯なんて、いったいどんな気分なのでしょう！



- 10 ある国の出版物（広義にはその国に関する著作やその国の言語で書かれた出版物等を含む）の記録。
- 11 IFLA Working Group on Guidelines for National Bibliographies, Maja Zumer (ed) . *National bibliographies in the digital age : guidance and new directions*. München : K.G. Saur, 2009.
なお、収集書誌部による日本語訳を当館ホームページに掲載している。
(<http://www.ndl.go.jp/jp/library/data/kokusai.html#04>)
- 12 ウェブ上で自由にリンクしやすい仕組みのデータ。
- 13 Session 215 — What is a national bibliography today and what are its potential uses? — Bibliography
(<http://conference.ifla.org/past/ifla78/session-215.htm>)
- 14 著作物の適正な再利用を促進する非営利団体クリエイティブ・コモンズが発行しているライセンスのうち、著作物をパブリック・ドメイン（いかなる権利も保有しないこと）とするもの。
- 15 図書館目録において検索の手がかりとなる著者名や主題語彙の統一した形等を定めたもの。
- 16 <http://conference.ifla.org/past/ifla78/session-181.htm>
- 17 Beyond libraries – subject metadata in the digital environment and semantic web
(<http://www.nlib.ee/tallinnsatellite/>)

HELSINKI

ヘルシンキの街を写真でご紹介します。



19世紀半ばに建築されたヘルシンキ大聖堂



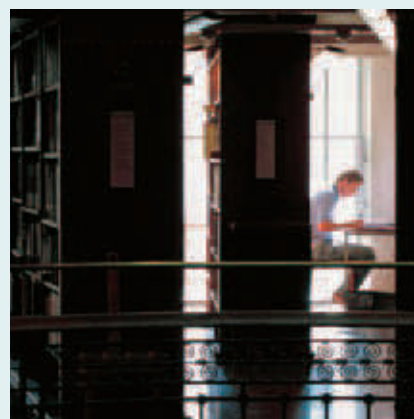
ヘルシンキ大聖堂前の元老院広場



ヘルシンキ大聖堂の向かいにあるヘルシンキ大学中央図書館の本館。フィンランド国立図書館を兼ねています。



左写真の奥にある別館は吹き抜けになっており、その周囲が閲覧スペースになっています。書架が放射状に配置されています。



フィンランド国立図書館本館の内部。壁面に貴重書が並べられています。



ヘルシンキはデザインの街。テキスタイルブランド店のディスプレイもカラフル。



季節は夏。街には花があふれていました。

資料保存 1

「保存力」を育てる工夫 資料保存分科会

2012年の資料保存分科会のオープンセッションは、効果的な保存研修のあり方をテーマ¹⁸に、教育・研修分科会との共催で行われました。

所蔵資料をできるだけ長く利用可能な状態に保つための働きかけである資料保存活動の内容は、良好な書庫環境の維持管理や劣化・破損の進んだ資料に対する専門的な手当の他に、書庫や閲覧室での資料の取り扱いに留意すること、保存容器への収納や簡単な補修を行うこと、災害発生に備えること等、多岐にわたります。保存担当者だけではなく、図書館内で資料を日常的に扱う機会のあるすべての人、職員全員が資料保存に何かしらの関わりを持つのです。そのため、職員が資料保存に関する基礎的な知識と技術を身に付け、平時・非常時における自らの役割を理解し、それぞれの持ち場に合った方法で適切に行動すれば、図書館の所蔵資料全体の保存リスクは大きく軽減します。

このセッションでは、図書館における資料保存活動の大きな柱である職員に焦点をあて、資料保存活動に対する当事者意識や自信をもたせ、各人の「保存力」を育てるための工夫をこらした研修事業について、各国から報告がありました。

フランス国立図書館からは、館内の資料提供部門や納本資料の受け入れを担当する職員を対象とした、簡易な補修や資料の適切な取り扱い方を学ぶ研修について報告がありました¹⁹。2010年の地震で甚大な被害を受けたハイチで復興支援にあ



各国からの参加者とともに

たったNGOの報告者からは、現地の図書館・文書館職員やボランティアのための災害対応研修と、将来の災害に備えた修復センターの設立および人材育成を目指す活動が紹介されました²⁰。カナダ議会図書館の報告では、保存担当者、利用サービス担当者、資料管理や施設管理に携わる職員を対象に行った研修が取り上げられました。演習と実地訓練からなる研修を自館で定める防災計画に沿って進め、終了後には、参加者を交えて防災計画の見直しを行ったそうです²¹。

一度に大量の資料を失う恐れのある災害への備えは、資料保存活動の中でも特に重要です。また、災害発生後の資料への影響を最小限にとどめるには図書館で働くすべての職員の協力が不可欠であることから、多くの図書館が資料の防災や災害対応のための館内研修に力を注いでいるのでしょう。

日本からの報告も災害対応に関するもので、東日本大震災後に実施した国立国会図書館の被災資料復旧に関する研修について、筆者が概要を紹介しました²²。米国議会図書館の報告²³の中で、効果的な研修プログラムを組むために保存担当者

同士で知恵を出し合うことが、担当者自身の能力向上にもなるといったコメントがありました。被災地図書館からの要請に応じて行った国立国会図書館の研修もまた、実施担当者である資料保存課にとって学ぶことが多いものでした。研修から得たものを新しい力に変えて、今後も保存研修の充実を図りたいと考えています。

（おかはし あきこ 収集書誌部資料保存課）

- 18 Empowering staff through preservation training! How your library and users will reap the benefits
(<http://conference.ifla.org/past/ifla78/session-200.htm>)
- 19 Preservation training: a priority for the Bibliothèque nationale de France/BnF ; two examples of successful trainings.
(<http://conference.ifla.org/past/ifla78/200-vallas-en.pdf>)
- 20 Preservation training and mobile treatment centre after a disaster.
(<http://conference.ifla.org/past/ifla78/200-jacobs-en.pdf>)
- 21 Emergency Preparedness Planning for Library Collections: Development of a Program and Lessons Learned.
(<http://conference.ifla.org/past/ifla78/200-brodie-en.pdf>)
- 22 Lessons learned: Training programs for post disaster recovery from the Great East Japan Earthquake.
(<http://conference.ifla.org/past/ifla78/200-okahashi-en.pdf>)
- 23 Empowering Your Staff through Collaboration in Training.
(<http://conference.ifla.org/past/ifla78/200-oconnor-en.pdf>)



IFLA/PAC ビジネス・ミーティングにおける報告

資料保存 2

大きな課題は2つのD

IFLA/PAC ビジネスミーティング
IFLA/PAC オープンセッション

IFLA には、資料保存に関わる活動をしているグループが2つあります。資料保存分科会と資料保存コア活動（以下、IFLA/PAC）です。前者は、図書館員や研究者などの専門家「個人」を構成員とする常任委員会が中心となって知見の共有・情報交換などを行います。後者の IFLA/PAC は、国際センターと世界各地の国立図書館に置かれた14の地域センターという「組織」が構成員です（国立国会図書館はアジア地域センターです²⁴）。活動の目的は、分科会と同じく資料の長期保存ですが、世界中の図書館で資料保存が政策的に重視されることを目指して、各地域の状況に応じた内容と方法で、情報発信や協力ネットワークの促進、教育・研修等に取り組んでいます。両者ともに、昨今の大きな課題は2つのD、「disaster（災害）」と「digital（デジタル）」です。

大会期間中に行われた IFLA/PAC ビジネスミーティングで、北米地域センターの米国議会図書館からは同館のサイトに地震や竜巻の際の資料防災に関するコンテンツが追加されたこと、中南米・カリブ地域センターの一角を担うブラジル国立図書館からは、同館がブルーシールド国内委員会と協力して資料防災活動に注力していることが報告されました。アジア地域センターからは、東日本大震災の被災資料救済に取り組む時限プロジェクト「東北地方太平洋沖地震被災文化財等救援事業」を契機に、国レベルかつ常設の文化財防

災組織の設置可能性に関する議論が起きつつあることを報告しました。ハイチ地震、東日本大震災などを経て、IFLA全体が災害対策を重視するようになっていることもあり、防災の話題が多く取り上げられる結果となりました。

IFLA /PAC主催のオープンセッションは、あらゆる媒体の資料を大量かつ長期にわたり保存するための書庫のあり方を考えることをテーマとしていました²⁵。米国カリフォルニア州立大学ノースリッジ校の図書館の自動書庫、英国図書館の新しい新聞保存書庫（建設中）などが、従来からある紙やフィルム等、アナログ媒体を収蔵する書庫の事例として紹介されました。デジタルについては、オランダ王立図書館から発表がありました。電子媒体の資料の長期保存対策として欠かせないマイグレーション（プログラムやデータの移行・変換）を、大量の資料に対して行う場合、大変に経費がかかります。同館では今後デジタル化資料の急増が見込まれるとのことで、限られた資源で保存対策を実施するためには、アナログ媒体に対して行ってきたのと同じように、電子媒体の資料も、資料群ごとに保存のためにどれだけ手をかけるかのレベルを予め決めて対策を施すことにしたそうです。

どの媒体で、どのように長期保存するかを選択肢には何種類もあり、まだ正解は見つかっていません。特に環境・経済的な面から、世界各地の大規模図書館で模索が続いています。来年のIFLA/PACセッションでは、この課題を取り上げる予定です。

このほか、IFLA/PAC等によるサテライトミー

ティングが、フィンランド国立図書館保存・デジタル化センターのあるミッケリで行われました。こちらの概要は、『図書館雑誌』2012年12月号で紹介しています。併せてお読みいただければ幸いです。

ところで、大会開催地ヘルシンキの観光名所の一つであるヘルシンキ大聖堂の向かいには、フィンランド国立図書館があります。ちょうど会期中、エントランスホールで、中世の貴重書の展示会が行われていました。ミッケリの保存・デジタル化センターで本格的な修復処置が施されてデジタル化された展示資料は、国内初公開のものも多かったそうです。それらの美しい羊皮紙の古書は、電子展示会でも見るができます²⁶。

（小林^{こばやし}直子^{なおこ} 収集書誌部主任司書、

IFLA/PACアジア地域センター長）

²⁴ <http://www.ndl.go.jp/jp/aboutus/iflapac.html>

²⁵ <http://conference.ifla.org/past/ifla78/session-102.htm>

²⁶ <http://keskiaika.kansalliskirjasto.fi/>



フィンランド国立図書館における貴重書展示

子どものための図書館は境界を超える

児童・ヤングアダルト図書館分科会

(1) サテライトミーティング

児童・ヤングアダルト図書館分科会のサテライトミーティングが、8月9、10日にフィンランドのヨエンスで開催されました。「子どものための図書館：境界を越える」というテーマで、21か国から約100名が参加しました²⁷。

(2) IFLA大会

今回、児童・ヤングアダルト図書館分科会は、本大会での2つのセッションと、エスボー市のセロ図書館でのオフサイトセッションを、公共図書館分科会、学校図書館・リソースセンター分科会との共催で開催しました。

本大会の2つのセッションでは、「絵本で世界を知ろう」プロジェクト²⁸および姉妹図書館プロジェクト²⁹がテーマとして取り上げられました。また、オフサイトセッション³⁰では、フィンランドの児童文学の紹介や、セロ図書館で行っているリーディング・ドッグ事業など、様々な取り組みが紹介されました。リーディング・ドッグとは、文字を読むことに障害のある子ども等の読書の相手をする犬のことです。リーディング・ドッグは

子どもにとって理想的な読書の相手だそうです。なぜなら子どもが読み間違えても批判したりせず、辛抱強く聞いてくれるからです。

(3) 「絵本で世界を知ろう」プロジェクト

2010年から開始したこのプロジェクトは、子どもたちが絵本を通じて国際理解を深めることができるように、世界各国の図書館員が自国の代表的な絵本を10冊ずつ選んでセットを作り、世界各地で展示会を開催するというものです。今回のIFLA大会では、まずサテライトミーティングに合わせて、9、10日にヨエンス中央図書館で、その後、資料をヘルシンキに移して、13日から16日までIFLA大会会場の向かいにあるパシラ図書館で展示会を開催しました。

アメリカ、イギリス、フランス、ドイツなどの欧米主要国のほか、日本、韓国、シンガポールなどのアジア諸国やマリ、セネガル、マダガスカルなどのアフリカなど、19か国147冊の絵本を展示しました。展示会には各図書館の利用者やIFLA大会参加者など多くの人を訪れ、各国の代表的な絵本を楽しんでいました。この展示会のカタログは、



リーディング・ドッグ

IFLA 児童・ヤングアダルト図書館分科会のサイトでPDFにより見ることができます³¹。

今回、展示会用に選ばれた絵本のセットは2つ構築され、大会終了後、フランス国立図書館と国立国会図書館に寄贈されました。来年度、国際子ども図書館で展示会を開催するとともに、日本国内やアジア諸国の図書館で実施される展示会への貸出しを開始する予定です。

(4) 姉妹図書館プロジェクト

姉妹図書館プロジェクトは、異なる国の図書館が、共通の言語で交流を図るというプロジェクトです。2009年11月に開始され、現在は、39組の姉妹図書館が成立しています。幸いにも日本語で交流できる相手先が見つかり、フィンランドのセイヨナキ図書館と韓国のインチョン市立スボン図書館が日本の図書館と姉妹関係を結ぶことになりました。どちらも日本語に堪能な職員がいる図書館です。セイヨナキ図書館は鎌倉市立図書館と姉妹図書館の成立に向けて話し合いが行われています。

(飛田 由美 国際子ども図書館

児童サービス課長)



展示会の様子

- 27 Libraries for Young People: Breaking through boundaries
(<http://www.jns.fi/Resource.phx/sivut/sivut-kirjasto/english/conference2012.htx>)
- 28 Picture books in libraries now!
(<http://conference.ifla.org/past/ifla78/session-99.htm>)
- 29 Sister Libraries Programme – new developments and evaluation of an international network for children and libraries
(<http://conference.ifla.org/past/ifla78/session-195.htm>)
- 30 Surprising Library!
(<http://conference.ifla.org/past/ifla78/session-160.htm>)
- 31 <http://www.ifla.org/files/assets/libraries-for-children-and-ya/Picturebooks/PictureBooksCompilation.pdf>

カラフル！

大会会場の前庭には、日替わりでフィンランド各地の移動図書館が来ていました。雪に閉ざされた暗い冬にこんな図書館バスが来たら、心躍るにちがいありません。フィンランドは公用語が2つあり、移民も多い国です。車体には、「図書館」という表示がフィンランド語（Kirjasto）、スウェーデン語（Bibliotek）、英語（Library）で書かれていました。



上野の森にて

「国際子ども図書館」。配属先を聞いた瞬間、なぜか「子どもたちに囲まれて体操をするお兄さん」の姿が脳裏をよぎりました。果たして自分に務まるのか……。生まれ育った関西の地を後にし、不安を抱えながら上野にやってきたのは今年の春のことでした。

私が配属されたのは「企画協力課協力係」。名前だけでは、何をしているところなのか、なかなか想像がつかないと思います。具体例をいくつかご紹介しますと、まず「連絡会議」の運営があります。正式には「国際子ども図書館連絡会議」といい、国際子ども図書館と協力関係にある諸機関の方から、前年度の活動と当該年度の取り組みに関するご意見を頂くために、毎年開催している会議です。児童書の図書館や出版団体、読書推進に関係する団体など、官民を交えた十数もの機関が一堂に会する会議当日のホールには緊張感が漂います。協力係は事務局として、出席者との連絡や資料準備、会場設営など、会議の運営を担当します。

刊行物の編集も、協力係の重要な仕事です。今年度、協力係が編集する刊行物は3誌。今回はすべての発行時期が8～10月に集中し、ロンドンオリンピック観戦で寝不足の中、右手に赤ペン、左手に団扇を持ちつつ、目を充血させながら原稿とにらみ合う日々が続きました。



他にも、児童文学連続講座の企画・運営や、ホームページでの子どもと本の情報の発信、国内外の図書館関係者の見学案内など、協力係では様々な業務を担当していますが、共通するのは、子どもと本をつなぐ人＝大人に対するサービスだという点です。国際子ども図書館職員の業務と聞くと、絵本の読み聞かせといったイメージが浮かぶ方も多いと思いますが、協力係のように子どもと接する機会がほとんどない部署も実は意外とあるのです。

予想に反し、パソコンのモニタや書類とにらめっこの日々は異動前とあまり変わりませんが、最近、長年悩まされていた肩こりが随分楽になったようです。事務室の外から聞こえてくる子どもたちの笑い声や泣き声が、知らないうちに肩の力を抜いてくれているのでしょうか。皆さんも上野にお越しの際は、ぜひ国際子ども図書館まで足を延ばしてみてください。

(企画協力課協力係 ○○)

数字で見る国立国会図書館

『国立国会図書館年報 平成23年度』から



ホームページでもご覧になれます。

国立国会図書館ホームページ
＞刊行物＞国立国会図書館年報

URL <http://www.ndl.go.jp/jp/publication/annual/index.html>

『国立国会図書館年報 平成23年度』をもとに、国立国会図書館の業務、サービス、組織に関するおもな数字を抜粋しました。

※数字は平成24年3月31日現在
(総務部総務課)

書誌データ作成 60万3581件

図書 16万4452件
雑誌・新聞 3134件
非図書資料 4万7846件
雑誌記事索引 38万8149件

書名、著者名、所在情報などの書誌データ、日本の出版物の記録である全国書誌を作成し、ホームページを通じて提供している。

雑誌・新聞のデータ更新
(改題など) 8404件

受入点数

96万2058点

図書 20万4047点
雑誌・新聞 58万9232点
非図書 16万8779点
マイクロ資料 9万9783点
映像資料 9053点
録音資料 1万1450点
機械可読資料(CD、DVD等) 1万71点
地図 3919点
博士論文 1万4241点
文書類 1万3739点
点字・大活字資料 1060点
など

図書や雑誌のほか、さまざまな資料を収集。平成14年度から、公的機関やイベントのサイトなどインターネット情報も収集している。

ウェブサイト
(インターネット資料収集保存事業)
ウェブサイト別 1万6648件

所蔵点数

3841万3236点

図書 988万7050点
雑誌・新聞 1484万6587点
非図書 1367万9599点
マイクロ資料 893万4480点
映像資料 28万973点
録音資料 66万9030点
機械可読資料(CD、DVD等) 11万924点
地図 54万1404点
博士論文 55万4697点
文書類 33万8525点
点字・大活字資料 3万2494点
など

納本、購入、寄贈、交換などさまざまな方法で入手している。

施設別の所蔵点数は次のとおり。

東京本館 2498万8176点
関西館 1223万7768点
国際子ども図書館 50万6355点

資料収集のための費用
約24億1千万円
うち、納入出版物代償金
約3億9千万円

館全体の予算・決算
歳出予算現額
約242億3800万円
決算額
約223億1200万円
前年度からの繰越額 約33億8470万円
次年度への繰越額 約3億9200万円

職員数
890人
男性 50%
女性 50%
専門調査員・管理職のうち女性の割合 30%

メディア変換
デジタル化
43万7210冊分

デジタル化等により媒体を変換し、原資料の代替として利用することにより、原資料の劣化を防ぐ。

ウェブサイト
(インターネット資料収集保存事業)
ウェブサイト別 4万3965件

■ 資料の収集・整理・保存に関すること
 ■ 人事・財政・施設に関すること
■ ■ ■ ■ サービスに関すること

国会へのサービス 依頼調査回答 4万 485件

国会議員等からの依頼に基づき、国政課題や内外の諸事情に関する調査、法案の分析・評価などを行っている。

行政・司法支部図書館 へのサービス 貸出し9363点

支部図書館制度に基づき、各府省庁および最高裁判所に支部図書館が設置されている。この図書館ネットワークをもとに、図書館サービス、資料の交換が行われている。

一般へのサービス 来館者62万4282人

東京本館 46万1880人
 関西館 6万 580人
 国際子ども図書館 10万1822人
 開館日数は東京本館・関西館は280日、国際子ども図書館は286日。

ホームページへのアクセス 2787万6007件

1日平均7万6164件
インターネットを通じて、蔵書目録、国会会議録等の各種データベース、調べものに役立つ情報などが利用できる。

一般へのサービス 閲覧226万2272点

東京本館 211万8240点
 関西館 11万3864点
 国際子ども図書館 3万 168点
 来館して申し込む閲覧サービス。

一般へのサービス 見学・参観7545人

東京本館 2770人
 関西館 2385人
 国際子ども図書館 2390人
 見学のお申し込みは本誌表紙裏参照。

国立国会図書館サーチで 統合検索できる書誌データ 7097万3194件

当館や他機関が保有する冊子体・デジタル化された画像・音声等の様々な形態の情報を検索。200種類のデータベースの統合検索が可能（うち他機関データベースは180種類）。

一般へのサービス レファレンス・サービス 65万1109件

東京本館 58万9347件
 関西館 5万 341件
 国際子ども図書館 1万1421件
 口頭、文書、電話により回答する。

一般へのサービス 来館複写申込 91万 770件

東京本館 83万1370件
 関西館 7万4104件
 国際子ども図書館 5296件
 来館して申し込む複写サービス。

近代デジタルライブラリー で閲覧できるタイトル インターネット提供

16万7004件(23万5022冊分)
 館内限定提供
 25万8061件(33万5230冊分)
 蔵書のうち、明治・大正期に刊行された図書の本文デジタル画像。

一般へのサービス 図書館等への貸出し 2万4550点

東京本館 7485点
 関西館 5033点
 国際子ども図書館 1万2032点
 図書館への貸出し、小中学生向けの学校図書館セット貸出し、展示会に出品するための貸出しがある。

一般へのサービス 遠隔複写申込 24万4698件

東京本館 12万7949件
 関西館 11万5989件
 国際子ども図書館 760件
 来館せずに、ホームページ等を通じて申し込む複写サービス。

建物延べ面積

21万5166㎡

東京本館 14万7853㎡
 国会分館 1331㎡
 関西館 5万9311㎡
 国際子ども図書館 6671㎡

書庫面積

10万4106㎡

東京本館 7万8046㎡
 国会分館 609㎡
 関西館 2万3926㎡
 国際子ども図書館 1525㎡

閲覧スペース面積

2万4837㎡

東京本館 1万8983㎡
 国会分館 562㎡
 関西館 4265㎡
 国際子ども図書館 1027㎡
 東京本館には、9の専門資料室と6の閲覧室がある。

本屋にない本

国立国会図書館は、法律によって定められた納本制度により、日本国内の出版物を広く収集しています。
ここでは、主として取次店を通さない国内出版物を取り上げて、ご紹介します。

天狗推参！ 特別展

神奈川県立歴史博物館編・刊

2010.9 167頁 30cm

<請求記号 GD38-J50>

真っ赤な顔に大きく長い鼻、装束は山伏、手には羽団扇、背中に翼——。天狗のイメージは日本人に馴染み深く、極めて明確だ。しかし「天狗とは何か？」と問われるとどうだろう。妖怪変化の親玉か、それとも山の神か？天狗を一つの定義におさめることは、実は非常に難しい。

本書は神奈川県立歴史博物館で開催された特別展「天狗推参！」の図録である。実際の展示に沿った5章と学芸員による論考からなり、天狗観の変遷を整理しつつ「天狗とは何か？」に迫る。

1章では名前と姿の両面から天狗の起源を探る。語の起源は中国にあり、日本では日本書紀に初めてアマツキツネが登場した。しかし当時は災厄をもたらす流星とされ、現代の我々が想像するものとは異なっていた。一方、姿の源流はインド土着の神々に求められている。中国でも鳥天狗を思わせる鳥頭有翼の鬼神の図像が流布し、本書でも多数紹介されている。日本の平安時代以降の絵巻等では、仏敵である鬼神は仏道修行を妨げる障魔であり、天狗は慢心に囚われ魔道に堕ちた人々の転生として描かれた。

2章では、中世以降、仏教と日本の土着信仰との習合が進む中で、天狗が多様化かつ神秘化していく様を掘り下げる。アマツキツネの名や翼を持つ姿、そして仏教の正道から外れた存在という共通点から、天狗は狐を使いとする稻荷神、白狐に跨る女神茶吉尼天、嘴と翼を持ち狐に乗る飯縄権現や秋葉権現といった神々へと連鎖する。また、天狗は山で遭

遇する目に見えぬ怪異とも考えられ、山を神聖視する山岳信仰や修験道と習合して山伏姿でも表される。さらに3章では、我々が天狗と聞いて真っ先に思い浮かべるあの大きな鼻が、舞楽面や民俗芸能に用いられる異形の面と通じることが示される。異質な存在と結び付き、様々な特徴を吸収しながら、曖昧だったイメージは明確になり、固定化され、天狗像ができあがっていく。

4章では浮世絵や刷物を取り上げ、江戸時代に進んだ天狗の大衆化を描く。身近な存在になるにつれ、天狗は崇高さと滑稽さの二面性を付与された。親しみをこめて戯画化された姿には愛嬌があり、江戸時代の遊び心に、思わず笑いを誘われてしまう。他方、畏怖のヴェールを取り除かれた天狗は、当時の貪欲な好奇心と知識欲の標的となり、天狗の正体を探るため文献考証が繰り返される。5章では天狗を民俗学的な視点から俯瞰し、現代にも生き続ける天狗の姿を見せる。

結局、「天狗とは何か？」の問いに答えは出されない。天狗の源流・支流は数多に枝分かれしており、遡ろうとすればするほどに異なる側面が顔を出す。その多様性を呑み込んだ変幻自在さこそが天狗の魅力の源であり、本書はそれを十分に伝えてくれる。

(総務部人事課 鈴木 麻央)

※現在、入手不能。国立国会図書館、神奈川県立歴史博物館ミュージアムライブラリー他にて閲覧可能。



平成24年度

国立国会図書館長と

大学図書館長との懇談会

11月16日、東京本館において標記の懇談会を実施した。これは、国立国会図書館が、国公私立大学図書館協力委員会委員館の図書館長および関係機関の代表者を招いて毎年行っているものである。

国立国会図書館からは、大滝則忠国立国会図書館長が、平成24年1月に行った国立国会図書館サーチを中心にしたサービス・システムの全面リニューアルや「私たちの使命・目標2012-2016」策定等この1年の動き、大学図書館との連携強化の方針について報告を行った。また、担当者から国立国会図書館のデジタルアーカイブ構築に向けた取組について報告を行った。

大学図書館からは、白石小百合氏（横浜市立大学学術情報センター長）が、学術情報の流通が変化する中での大学図書館の課題、学生が集まって様々な情報資源を利用しながら議論を進めていく学習スタイルを可能にする「場」としてのラーニング・コモンズ設置の取組等について報告を行った。

その後、各大学におけるラーニング・コモンズ運営の工夫、国立国会図書館におけるオンライン資料収集の今後の見通し、東日本大震災アーカイブの構築に向けた取組等について活発な質疑、意見交換が行われた。



お知らせ

■「歴史的音源」の追加提供と 憲政資料の「国立国会図書館 デジタル化資料」への追加

国立国会図書館は、11月22日（木）に、歴史的音源（※1）約1万3千点の追加提供を開始しました。これにより、国立国会図書館が提供する歴史的音源の総数は約3万9千点になりました。これらの音源は、国立国会図書館のほか、全国約90館の歴史的音源配信参加図書館（※2）でご利用いただけます。著作権・著作隣接権の保護期間が満了している741音源については、インターネットでもご利用いただけます。

また、同日から、国立国会図書館憲政資料室が所蔵する近現代の日本の政治家・官僚・軍人などが所蔵していた書簡・書類・日記等のうち、約140点が「国立国会図書館デジタル化資料」で検索・閲覧できるようになりました。こちらは全てインターネットで公開しています。

国立国会図書館は、今後も順次デジタル化資料の追加提供、インターネット公開を行っていきます。どうぞ、ご利用ください。

※1 1900年代初頭から1950年頃までに国内で製造されたSPレコード等に録音されている音楽・演説等。「国立国会図書館デジタル化資料」(<http://dl.ndl.go.jp>)で提供中。

※2 参加館を継続募集中です。詳しくは「歴史的音源の公立図書館等への配信提供に関するページ」(<http://dl.ndl.go.jp/ja/rekion4Lib.html>)をご覧ください。

○今回追加される歴史的音源の例 【<http://dl.ndl.go.jp/#music>】

<インターネット公開>

『俚謡：相馬節（福島県民謡）』実演：鈴木正夫（ヒコーキ，1931）（リーガル，1931）

『自作短歌朗読：与謝野晶子』作・朗読：与謝野晶子（コロムビア，1939）

<当館および配信参加館内限定提供>

『月が鏡であったなら ～「忘れちゃいやヨ」改訂盤～』歌：渡辺はま子（ビクター，1936）

『国語教育レコード』シリーズ 監修：西尾実・波多野完治（ビクター，1957）

『落語：近日息子（一）～（四）』実演：初代桂春団治（リーガル，1931）（オリエント，1931）

○今回提供開始される憲政資料の例 【<http://dl.ndl.go.jp/#kensei>】

<全てインターネット公開>

青木周蔵関係文書、伊藤博文関係文書、勝海舟関係文書、陸奥宗光関係文書などの一部

○お問い合わせ先

国立国会図書館 関西館 電子図書館課 電子化資料提供係

電子メール dl@ndl.go.jp



お知らせ

■ オンライン資料 制度収集説明会

平成25年7月1日から、文化財の蓄積およびその利用に資するため、納本制度に準じ、民間で出版されたオンライン資料（インターネット等を通じて発信される電子書籍、電子雑誌等）を国立国会図書館に納入することが義務付けられます。

納入の対象となるのは、当面、無料かつDRM（Digital Rights Management 技術的制限手段）のないオンライン資料です。例えば、インターネット上で無料で提供されている、年鑑、要覧、機関誌、調査報告書、事業報告書、学術論文、紀要、技報、ニュースレター、小説、実用書、児童書等が納入の対象です。

国立国会図書館では、オンライン資料の収集を関係各位のご理解のもとに進めてまいりたいと考えております。そこで、皆様のご理解、ご協力を賜るため、以下の要領で、出版者（インターネット等で無料かつDRMなしで電子書籍・電子雑誌等を公開し、または公開しようとしている方）等を対象とする説明会を開催いたします。

○日 時

第1回 平成25年1月30日（水）15:00～16:30（14:30開場）

第2回 平成25年4月17日（水）15:00～16:30（14:30開場）

※第1回、第2回ともに、内容は同じです。

○会 場 東京本館 新館講堂（定員約300名）

関西館 第1研修室（定員約70名 東京会場からのテレビ中継）

○対 象 出版者（インターネット等で無料かつDRMなしで電子書籍・電子雑誌等を公開し、または公開しようとしている方）等

○お申込方法

第1回は平成25年1月25日（金）17:00まで、第2回は平成25年4月12日（金）17:00までに、参加申込みフォームからお申し込みください。定員に達した時点で受付を終了いたします。

国立国会図書館ホームページ（<http://www.ndl.go.jp/>）>イベント・展示会情報
>オンライン資料制度収集説明会

URL http://www.ndl.go.jp/jp/event/events/online_seminar.html

○お問い合わせ先

国立国会図書館 電子情報部 電子情報企画課

電話 03（3581）2331（内線40110）



お知らせ

■ 平成24年度 アジア情報研修

日本国内の図書館員等を対象に、アジア情報に関するサービスの向上を図ることを目的として、平成24年度アジア情報研修を実施します。

- 日 時 平成25年2月7日（木）、8日（金）の2日間。
- 会 場 関西館 第1研修室
- 対 象 大学図書館、専門図書館および公共図書館または研究機関の職員等で、原則として業務においてアジアに関連する情報を扱う方。
- 定 員 30名。応募多数の場合は調整します。
- 日 程 第1日：2月7日（木） 13:00～17:50
13:10 「中国情報の調べ方（講義・実習）」
15:20 「コリア情報の調べ方（講義・実習）」
当館アジア情報課職員
17:00 アジア情報室・書庫見学
*第1日目終了後、18:00から19:00まで、懇親会を予定しています。
第2日：2月8日（金） 10:00～12:10
10:00 「朝鮮本の概要」
藤本幸夫氏（富山大学名誉教授）
12:00 修了証書授与・閉会の挨拶
*演題はいずれも仮題です。

○参 加 費 無料。ただし旅費・滞在費等は受講者の負担とします。

○お申込方法

平成25年1月25日（金）までに、電子メール（またはファクシミリ）で、①氏名（ふりがな）、②所属機関・所在地、③所属部署・職名、④電話番号（日中のご連絡先）、⑤電子メールアドレス（またはFAX番号）をご記入の上、お申し込みください（必着）。タイトル・件名欄に「アジア情報研修申込み」とお書きください。

*受講の可否は平成25年1月29日（火）までにお知らせします。

○お申込み・お問い合わせ先

国立国会図書館 関西館 アジア情報課

電子メール k-azia@ndl.go.jp FAX 0774 (94) 9115

電話 0774 (98) 1371（直通）

お知らせ

■ 平成 24 年度 児童サービス 協力フォーラム

国際子ども図書館は、都道府県立図書館による児童サービスのあり方についての意見交換・相互交流の場を設け、関係者間の連携・協力を促進するため、平成 24 年度「児童サービス協力フォーラム」を開催します。

今回は「ウェブを活用した情報発信～子どもの読書活動の推進に向けて～」をテーマとして、参加者の皆さんとともに現状と課題を探ります。

- 日 時 平成 25 年 3 月 4 日（月） 13:00～16:00
- 会 場 国際子ども図書館 ホール（3 階）
- 対 象 公共図書館の児童サービス担当者、子ども読書推進担当者等
- 定 員 80 名。申込多数の場合は調整します。
- 参 加 費 無料。ただし、旅費等は参加者の負担とします。
- お申込み方法

次の事項を記載の上、平成 25 年 1 月 12 日（土）までに電子メールでお申し込みください。①お名前（ふりがな）、②ご所属、③電話番号（緊急時の連絡用）、④閉会後の自由懇談・交流の参加希望の有無、⑤ディスカッションの参考のために以下の質問への回答にご協力ください。

[公共図書館職員の方] 貴館で行っている、子どもの読書活動推進に関わるウェブでの情報発信の概要、その成果と課題について簡単にご記入ください。

[公共図書館職員以外の方] 子どもの読書活動推進に関わる公共図書館が発信するウェブ上の情報について、使用した感想・要望、よく使用するコンテンツ名をお知らせください。

*参加の可否は、平成 25 年 1 月中旬までに通知します。

*電子メール以外の申込方法については、下の連絡先までお問い合わせください。

○お申込み・お問い合わせ先

国立国会図書館 国際子ども図書館 児童サービス課 企画推進係

電子メール h24forum@ndl.go.jp 電話 03（3827）2053（代表）

※フォーラムの詳細は、ホームページをご覧ください。

国際子ども図書館ホームページ（<http://www.kodomo.go.jp/>）

>研修・交流>関連機関との連携協力>児童サービス協力フォーラム

>平成 24 年度児童サービス協力フォーラム

URL <http://www.kodomo.go.jp/study/cooperation/forum/2013.html>

お知らせ

■ 本の万華鏡（第11回） 「はやり病あれこれ」



11月21日から提供を開始したミニ電子展示「本の万華鏡」第11回のテーマは、感染症です。

感染症とは、微小な病原体が体内に侵入し増殖することによっておこる病気の総称です。病原体となる細菌、ウィルス、原虫などは人類の誕生よりもはるか昔から地球に存在していたため、人類はその誕生からずっと感染症に悩まされてきました。そして、交通手段の発達によって、一地域の小集団の風土病は文明を脅かすような流行病となりました。ローマの兵士が持ち帰り、ローマ帝国を弱体化させた天然痘やマラリア。モンゴル帝国が運び込み、ヨーロッパ全土で大流行した中世末期のペスト。19世紀インドの一地域から世界に広まったコレラ。第一次世界大戦中、世界中で蔓延したインフルエンザ・・・。

そして現在は全世界が様々な交通手段で結ばれていて、感染症もかつてないほど速く伝わります。2002年のSARSも2009年の新型インフルエンザも、瞬く間に世界に広がりました。医療や公衆衛生の発達のおかげで、根絶した病もあれば死亡率が低下した病もありますが、それでも人類にとって病は大きな災厄です。

平清盛など多くの歴史上の人物も感染症で命を落としたと言われています。人々は感染症を恐れ、神として祭って機嫌を取ったり、治療法や予防法など新しい医療技術を発達させました。また、感染症は錦絵や文学にも現れました。

今回は世界で大流行した感染症の中から、天然痘、ペスト、コレラ、結核、マラリア、インフルエンザの6つの感染症にまつわるさまざまなエピソードを、当館の所蔵資料からご紹介します。

○URL <http://navi.ndl.go.jp/kaleido/>



「為朝の武威痘鬼神を退くの図」
大蘇芳年〔画〕1902
（『新形三十六怪撰』東京 松本平吉
1898-1902）
＜請求記号 寄別2-2-2-5＞
（<http://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/1306529>）



「平清盛炎焼病之図」（部分）
芳年 秋山武右衛門 1883
（『あづまにしきゑ』）
＜請求記号 本別15-22＞
（<http://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/1312533>）



「マスクとうがひ」と「予防接種」
（内務省衛生局 編・刊『流行性感冒』1922）
＜請求記号 14.6ハー150＞
（<http://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/985202>）



お知らせ

■ 新刊案内 国立国会図書館の 編集・刊行物



レファレンス 742号 A4 71頁 月刊 1,050円 発売 日本図書館協会

- ・日本国憲法と内閣法の間
- ・憲法第9条の交戦権否認規定と国際法上の交戦権
- ・米本土における艦載機離発着訓練（FCLP）施設設置問題
- ・イタリアにおける憲法改正（短報）

入手のお問い合わせ

日本図書館協会

〒104-0033 東京都中央区新川1-11-14 電話 03（3523）0812

620（2012年11月）号の訂正とお詫び
39ページ JA 新いわて東部営農経済センター 米穀園芸課の電話番号
（誤）06（6946）5802 → （正）0195（61）2511

平成 **24** 年(2012) **1** 月号 >> **12** 月号 No. **610~621**

凡 例 記事種別、さらに記事名の数字順、アルファベット順、次いで50音順に排列した。
ただし、連載記事は原則として掲載順に排列した。

記 載 例 国立国会図書館関西館 開館10周年を迎えて (石川 武敏) 619 ⑩ : 5-14

記事名 執筆者名 掲載号 掲載月 頁

● 今 月 の 一 冊

国立国会図書館の蔵書の中から、美しい本、珍しい本、面白いエピソードがある本を広く紹介。

山路の雫 尾張藩の古武具研究	(大沼 宜規)	610 ① : 4-5
ひなあそび 江戸時代の小さな本	(上田 由紀美)	611 ② : 2-3
宙乗寿語六 宙飛ぶ役者たち	(伊藤 りさ)	612 ③ : 2-3
川村清雄 作品と其人物 画家への傾倒が書かせた本	(藤田 壮介)	613 ④ : 2-3
ハベトリデー 『コドモノクニ』が映し出す時代	(福士 輝美)	614 ⑤ : 4-5
平假名新聞稚繪解 子供向け錦絵仕立の三面記事	(川本 勉)	615/616 ⑥/⑦ : 2-3
レコード販売目録 大正・昭和のレコード会社いまむかし	(山本 俊亮)	617 ⑧ : 2-3
世界第一チャリ子大曲馬廻り寿語六 蘆原英了コレクションのサーカス関係資料から	(邊見 由起子)	618 ⑨ : 2-3
原始仏教の実践哲学 和辻哲郎の博士論文(関西館のコレクション紹介)	(長尾 宗典)	619 ⑩ : 2-3
紙に遺された映画たち 大正期連続活劇映画のノヴェライゼーション	(藤元 直樹)	620 ⑪ : 2-3
図書館 戦後青少年に向けた本	(鈴木 宏宗)	621 ⑫ : 2-3

● シリーズ 被災地の図書館は今

国立国会図書館の被災復興支援に関わる活動や被災地の図書館の現状等を紹介。

シリーズ 被災地の図書館は今		617 ⑧ : 4
震災、その後——新たな連携に向けて (電子情報部電子情報サービス課次世代システム開発研究室)		617 ⑧ : 5-8
東北大学附属図書館ツアー 被害の実態と事前の準備を学ぶ (中島 尚子)		617 ⑧ : 9-10
宮城県内市町村図書館等に見る東日本大震災からの復興の現状 (熊谷 慎一郎)		617 ⑧ : 11-14
シリーズ 被災地の図書館は今(2)		620 ⑪ : 4
一歩ずつ、前に 被災資料救済支援の現場から (岡橋 明子)		620 ⑪ : 5-10
陸前高田市立図書館郷土資料救済支援について (澤口 祐子)		620 ⑪ : 11-14
シリーズ 被災地の図書館は今(3)		621 ⑫ : 4
福島県における図書館の復興と課題 (吉田 和紀)		621 ⑫ : 5-9



一般記事

図書館界の最新情報、国立国会図書館の蔵書、サービス、業務などを紹介。

新たな貴重書のご紹介 第46回貴重書等指定委員会報告	(貴重書等指定委員会)	617 ⑧ : 16-25
ある好古家のコレクション 根岸武香と青山文庫 ―「国立国会図書館デジタル化資料」搭載を契機として―	(大沼 宜規)	620 ⑪ : 26-38
遠隔複写サービスの現在とこれから	(関西館文献提供課)	611 ② : 21-25
海外に渡った日本人の足跡 憲政資料室所蔵 日系移民関係資料のご紹介	(利用者サービス部政治史料課)	618 ⑨ : 15-22
革命以後のフランス官報 第一共和政期(1792-1804)を中心に	(白岩 一彦)	611 ② : 4-10
『各国憲法集』と世界の憲法のいろいろ	(調査及び立法考査局憲法課)	614 ⑤ : 12-15
企画展示 日本と西洋―イメージの交差	(展示委員会企画展示小委員会)	620 ⑪ : 15-24
企画展示「ビジュアル雑誌の明治・大正・昭和」	(展示委員会企画展示小委員会)	610 ① : 6-12
キッズページと子どもOPAC 国際子ども図書館の情報発信	(国際子ども図書館児童サービス課)	614 ⑤ : 6-9
キッズページを利用して	(岡島 玲子)	614 ⑤ : 10
脚本アーカイブズ・シンポジウム 失われた脚本・台本を求めて―文化リサイクルの意義	(石橋 映里)	615/616 ⑥/⑦ : 18-24
憲政資料室の新規公開資料から	(利用者サービス部政治史料課)	615/616 ⑥/⑦ : 12-17
国立国会図書館 建築の歩み	(総務部管理課)	613 ④ : 12-16
国立国会図書館にない本 戦前から占領期の出版物	(小林 昌樹、鈴木 宏宗、山田 敏之)	612 ③ : 20-28
国立国会図書館の平成24年度予算	(総務部会計課)	614 ⑤ : 24-25
国立国会図書館のホームページが新しくなりました	(電子情報部電子情報流通課)	612 ③ : 16-17
国会と国民とをつなぐ「国会関連情報」のページ	(調査及び立法考査局)	613 ④ : 18-20
就任のごあいさつ 国立国会図書館の原点と発展	(大滝 則忠)	614 ⑤ : 2-3
重要文化財指定資料紹介「釋氏往來」	(利用者サービス部人文課)	617 ⑧ : 26-27
新年のごあいさつ 震災アーカイブの構築と新しいサービス	(長尾 真)	610 ① : 2-3
数字で見る国立国会図書館『国立国会図書館年報 平成23年度』から	(総務部総務課)	621 ⑫ : 24-25
政治談話録音の50年	(堀内 寛雄)	613 ④ : 4-11
「知識インフラ」の構築に向けて「第三期科学技術情報整備基本計画」の策定	(利用者サービス部科学技術・経済課)	610 ① : 23-27
特集 国立国会図書館関西館		619 ⑩ : 4
国立国会図書館関西館 開館10周年を迎えて	(石川 武敏)	619 ⑩ : 5-14
国立国会図書館関西館開館10周年記念展示会「関西の図書館100年、関西館の10年」		619 ⑩ : 16-23
関西発・知られざる図書館のあゆみ	(関西館10周年記念行事担当)	
国立国会図書館の研修で、あなたの技術と知識を磨いてみませんか?	(関西館図書館協力課)	619 ⑩ : 24-27
図書館は今! ひらめきを、驚きを、活力を与えるもの 世界図書館情報会議 第78回国際図書館連盟(IFLA)大会	(国立国会図書館IFLAヘルシンキ大会代表団)	621 ⑫ : 10-22
日清戦争を描いた雑誌『日清戦争実記』と『日清戦争図絵』のビジュアル表現	(岡村 志嘉子)	611 ② : 12-20
被災資料を救う 国立国会図書館の1年間の取組みを振り返る	(収集書誌部資料保存課)	615/616 ⑥/⑦ : 4-10
フランス寓話と浮世絵 P.バルブトーの挿絵本たち	(高山 晶)	612 ③ : 4-12
身近な科学を楽しむ 国際子ども図書館の「科学あそび」	(国際子ども図書館児童サービス課)	610 ① : 18-22
子どもの心に寄り添って	(坂口 美佳子)	610 ① : 20-21
「私たちの使命・目標2012-2016」を策定しました。	(総務部企画課)	618 ⑨ : 24-25



言葉のエッセイ

最終回 世界言語の妄想

610 ① : 16-17



企画展示「ビジュアル雑誌の明治・大正・昭和」から 近代の印刷技術

3 三色版・原色版、グラビア印刷、オフセット印刷とHBプロセス

(展示委員会企画展示小委員会)

610 ① : 13-15



さがすヒント

国立国会図書館サーチ、NDL-OPACの使い方

(利用者サービス部サービス企画課、電子情報部電子情報サービス課)

612 ③ : 18-19

国立国会図書館サーチ、NDL-OPACの使い方

(利用者サービス部サービス企画課・サービス運営課、電子情報部電子情報サービス課)

613 ④ : 21



本の森を歩く

国立国会図書館の巨大な書庫の中から、毎回一つのテーマにそって蔵書を紹介。

第8回 3・11から生まれた本

(村本 聡子、服部 恵久、松井 一子)

612 ③ : 13-15

第9回 英国を魅了した日本

(大塚 奈奈絵)

613 ④ : 22-26



世界図書館紀行

イスタンブール

(林 瞬介)

614 ⑤ : 16-23

ライデン大学図書館特別コレクション室

(奥田 倫子)

618 ⑨ : 4-13

館内スコープ

館内の様々な業務を担当職員が紹介するコラム。

科学技術情報流通の裏方	(科学技術・経済課企画運営係)	610 ① : 28
「もの」を受け止め、つなぐ 国立国会図書館のソーム	(総務部総務課)	611 ② : 11
国会分館を詠む	(国会分館)	612 ③ : 29
職員採用のための地道な日々	(人事課任用係)	613 ④ : 17
本を未来へ伝える	(図書館資料整備課図書資料係)	614 ⑤ : 11
被災地に行こう。	(資料保存課和装本保存係)	615/616 ⑥/⑦ : 11
情報セキュリティ対策の取り組み	(電子情報企画課情報化総括係)	617 ⑧ : 15
世界の日本関係資料を集めています	(外国資料課選書係)	618 ⑨ : 14
大きな図書館のなかの小さな図書館	(アジア情報課アジア第二係)	619 ⑩ : 15
外部の有識者と連携して、よりよいサービスを！	(調査企画課連携協力室)	620 ⑪ : 25
上野の森にて	(企画協力課協力係)	621 ⑫ : 23

本屋にない本

納本制度により収集した出版物の中から、主に取次店を通らず入手しにくい国内出版物を紹介。本誌創刊以来続くコーナー。

『岩手キャベツ物語 玉菜、「南部甘藍」から「いわて春みどり」まで』	(小熊 有希)	620 ⑪ : 39
『瓦版にみる幕末大坂の事件史・災害史 テーマ展』	(井上 佐知子)	611 ② : 27
『桐に生きて 聞き書き山形桐職人大沼喜代治』	(宇野 理恵子)	615/616 ⑥/⑦ : 25
『コインの水族館』	(今岡 直子)	617 ⑧ : 28
『侯爵家のアルバム 企画展示 孝允から幸一にいたる木戸家写真資料』	(葦名 ふみ)	611 ② : 26
『ここはじょんでえら 震災を経験した小千谷市十二平集落の道標』	(林 明日香)	612 ③ : 30
『最後の民権政治家 立川雲平』	(堀内 寛雄)	610 ① : 29
『水都大阪と淀川 新淀川100年 特別展』	(中能 淳)	614 ⑤ : 26
『瀬戸内の港町ゆかりの看板・引札展 ユニークで滑稽な広告文化 二〇一〇(平成二十二)年特別展』	(中野 路子)	613 ④ : 27
『多摩・商店ことはじめ 商店の歴史と多摩ニュータウン パルテノン多摩歴史ミュージアム特別展』	(大森 健吾)	619 ⑩ : 28
『千代田図書館蔵「内務省委託本」関係資料集』	(長尾 宗典)	612 ③ : 31
『天狗推参！ 特別展』	(鈴木 麻央)	621 ⑫ : 26
『中野を語る建物たち 中野区大正期・昭和前期建造物調査報告書』	(藤田 壮介)	618 ⑨ : 23
『「函館の貴重児童資料」論集』	(見形 宗子)	610 ① : 30

N D L News 当館の最近の動き

館にかかわる新しい動き、重要な会議等の報告。

おもな人事	612 ③ : 33 613 ④ : 30-31 617 ⑧ : 30 619 ⑩ : 31
韓国国立中央図書館との第15回業務交流	619 ⑩ : 30

韓国国会図書館、韓国国会立法調査処との第3回業務交流	611 ② : 28-29
国際政策セミナー「世界経済の動向と日本の成長戦略」	612 ③ : 32
新館長就任	613 ④ : 28
新副館長就任	618 ⑨ : 26
第1回科学技術情報整備審議会	610 ① : 31
第22回納本制度審議会	613 ④ : 28-29
第2回科学技術情報整備審議会	618 ⑨ : 26
第8回レファレンス協同データベースフォーラム	613 ④ : 30
中国国家図書館との第30回業務交流	610 ① : 31
東日本大震災により被災した古文書の修復を開始	619 ⑩ : 29
平成23年度国立国会図書館長と行政・司法各部門支部図書館長との懇談会	611 ② : 28
平成23年度国立国会図書館長と大学図書館長との懇談会	611 ② : 28
平成23年度児童書総合目録事業運営会議	612 ③ : 33
平成23年度書誌調整連絡会議	612 ③ : 32
平成24年度国際子ども図書館連絡会議	617 ⑧ : 29
平成24年度国立国会図書館長と大学図書館長との懇談会	621 ⑫ : 27
平成24年度国立国会図書館長と都道府県立及び政令指定都市立図書館長との懇談会	617 ⑧ : 29
平成24年度書誌調整連絡会議	620 ⑪ : 40
法規の制定	611 ② : 29
	614 ⑤ : 27
	617 ⑧ : 30

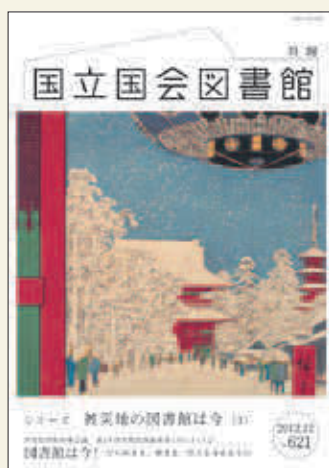


お知らせ

新しいサービス、イベント、研修等のお知らせのほか、刊行物の
新刊案内を掲載。

絵本ギャラリー「『幼年画報』掲載作品検索」で閲覧できる画像が増えました	614 ⑤ : 29
オンライン資料制度収集説明会	621 ⑫ : 29
『活動実績評価に見る平成23年度の国立国会図書館』を刊行しました	618 ⑨ : 27
関西館小展示（第11回）「日本の詩歌」	615/616 ⑥/⑦ : 30
関西館小展示（第12回）「時空をかける三国志」	619 ⑩ : 35
官報、古活字版コレクション等をインターネット公開 デジタル化資料の提供総数200万点突破	614 ⑤ : 30
脚本アーカイブズ・シンポジウム「失われた脚本・台本を求めて～文化リサイクルの意義」	610 ① : 33
講演会「HathiTrustの挑戦 デジタル化資料の共有における『いま』と『これから』」	615/616 ⑥/⑦ : 26
講演会「HathiTrustの挑戦—デジタル化資料の共有における『いま』と『これから』」	620 ⑪ : 42
公立図書館への歴史的音源配信の提供を本格的に実施	617 ⑧ : 37
国際子ども図書館講演会「読者としての子どもたち—発達と読書、読書の発達—」	613 ④ : 33
国際子ども図書館講演会「天沢退二郎さんに聞く—21世紀の宮沢賢治—」	617 ⑧ : 34
国際子ども図書館講演会「中国の子どもの読書—作家・彭懿氏が語る現在—」	619 ⑩ : 36
『国際子ども図書館調査研究シリーズ』No.2を刊行しました	618 ⑨ : 31
国際子ども図書館展示会「世界のバリアフリー絵本展—国際児童図書評議会2011年推薦図書展」	615/616 ⑥/⑦ : 29
国際子ども図書館展示会「セント・ニコラス：世界の子どもたちが集った雑誌」	620 ⑪ : 43
国際子ども図書館夏休み催物「科学あそび2012」	615/616 ⑥/⑦ : 28
国際子ども図書館春休み催物「子どものための絵本と音楽の会」	610 ① : 34

国立国会図書館関西館開館10周年記念講演会（山室信一氏・陶器二三雄氏）のご案内	617 ⑧	：	32-33
国立国会図書館関西館開館10周年記念国際シンポジウム「図書館サービスとe戦略」のご案内	618 ⑨	：	28
国立国会図書館関西館開館10周年記念展示会「関西の図書館100年、関西館の10年」のご案内	618 ⑨	：	29
国立国会図書館データベースフォーラム	617 ⑧	：	31
「国立国会図書館典拠データ検索・提供サービス（Web NDL Authorities）」の本格サービス開始	610 ①	：	32
子どものための音楽会「宮沢賢治と音楽—『日本の子どもの文学』展によせて—」	618 ⑨	：	30
シリーズ・いま、世界の子どもの本は？（第6回）「いま、アフリカの子どもの本は？」	614 ⑤	：	28
資料のデジタル化に伴い原資料の利用を停止します	619 ⑩	：	32
シンポジウム「東日本大震災の記録の収集と保存—震災アーカイブの構築に向けて」	611 ②	：	32
総合調査報告書『技術と文化による日本の再生』を刊行しました	619 ⑩	：	39
第14回図書館総合展に参加します	619 ⑩	：	33
調査資料『国による研究開発の推進』『東日本大震災への政策対応と諸課題』を刊行しました	613 ④	：	32
デジタル化した蔵書26万5千冊が館内で利用できるようになりました	610 ①	：	32
デジタル化資料の館内追加提供およびインターネット公開について	617 ⑧	：	36
東京本館「利用ガイダンス」	619 ⑩	：	37
図書館調査研究リポートNo.13『東日本大震災と図書館』を刊行しました	615/616 ⑥/⑦	：	32
年末年始のご利用について	620 ⑪	：	41
「藤山愛一郎政治談話録音」を公開しました	611 ②	：	30
ブランゲ文庫の児童書がNDL-OPACで検索できるようになりました	614 ⑤	：	29
平成23年度利用者アンケートの結果をホームページに掲載しました	610 ①	：	35
平成24年度アジア情報研修	621 ⑫	：	30
平成24年度科学技術情報研修	615/616 ⑥/⑦	：	31
平成24年度企画展示「日本と西洋—イメージの交差」	619 ⑩	：	34
平成24年度国立国会図書館職員採用試験	612 ③	：	34
平成24年度児童サービス協力フォーラム	621 ⑫	：	31
平成24年度障害者サービス担当職員向け講座	619 ⑩	：	38
平成24年度図書館情報学実習生を募集します	612 ③	：	35
平成24年度の図書館員を対象とする研修	613 ④	：	34-35
平成24年度レファレンス研修	617 ⑧	：	35
本の万華鏡（第9回）「江戸の花見—花爛漫—」	612 ③	：	36
本の万華鏡（第10回）「大正デモクラシーとメディア」	617 ⑧	：	38
本の万華鏡（第11回）「はやり病あれこれ」	621 ⑫	：	32
利用者アンケート ご協力をお願い	615/616 ⑥/⑦	：	27
歴史的音源の公立図書館への配信試行が始まりました	611 ②	：	31
「歴史的音源」の追加提供と憲政資料の「国立国会図書館デジタル化資料」への追加	621 ⑫	：	28
●新刊案内 国立国会図書館の編集・刊行物			
NDL CD-ROM Line 点字図書・録音図書全国総合目録 2011年2号～2012年1号	610 ①	：	36
	617 ⑧	：	40
	610 ①	：	36
外国の立法 立法情報・翻訳・解説 第250号～第253号	613 ④	：	36
	617 ⑧	：	39
	619 ⑩	：	40
	611 ②	：	32
カレントアウェアネス 310号～313号	613 ④	：	36
	617 ⑧	：	40
	619 ⑩	：	40
平成23年度国際子ども図書館児童文学連続講座講義録「児童文学とことば」	620 ⑪	：	44
レファレンス 731号～742号	毎号		



『国立国会図書館月報』のご購入については、
 社団法人 日本図書館協会へお問い合わせください。
 バックナンバーも取り扱っております。

〒104-0033

東京都中央区新川1-11-14

電話 03(3523)0812(販売)

C O N T E N T S

- 02 <Book of the month - from NDL collections>
Toshokan : a book for young people in the postwar era
- 04 Libraries now in the areas stricken by the Great East Japan Earthquake (3)
- 05 Status and challenges of recovery from the Great East Japan Earthquake in Fukushima prefecture
- 10 Libraries Now! - Inspiring, Surprising, Empowering
 World Library and Information Congress: 78th IFLA General Conference and Assembly
- 24 The NDL in figures: from the *Annual Report of the NDL, FY2011*
- 23 <Tidbits of information on NDL>
 In the woods of Ueno: International Library of Children's Literature
- 26 <Books not commercially available>
 ○ *Tengu suisan* : *tokubetsuten*
- 27 <NDL News>
 ○ FY2012 meeting between the Librarian of NDL and directors of university libraries
- 28 <Announcements>
 ○ New Historical Recordings collection and new modern Japanese political history materials added to the NDL Digitized Contents
 ○ Briefing session on e-legal deposit of online publication
 ○ Training program on Asian information FY2012
 ○ Cooperation forum for children's services FY2012
 ○ Kaleidoscope of Books (11) "Infectious diseases in books"
 ○ Book notice - Publications from NDL
- 34 Annual index to *National Diet Library Monthly Bulletin*, nos. 610-621

国立国会図書館月報

平成 24 年 12 月号 (No.621)

平成 24 年 12 月 20 日発行 定価 525 円
(本体 500 円)

発行所 国立国会図書館
 編集者 田 中 久 徳
 責任者
 〒 100-8924 東京都千代田区永田町 1-10-1
 電 話 03 (3581) 2331 (代表)
 F A X 03 (3597) 5617
 E-mail geppo@ndl.go.jp

発 売 社団法人日本図書館協会
 〒 104-0033 東京都中央区新川 1-11-14
 電 話 03 (3523) 0812 (販売)
 F A X 03 (3523) 0842
 E-mail hanbai@jla.or.jp

印 刷 所 株式会社 正文社印刷所

本誌に掲載した論文等のうち意見にわたる部分は、それぞれ筆者の個人的見解であることをお断りいたします。本誌に掲載された記事を全文または長文にわたり抜粋して転載される場合には、事前に当館総務部総務課にご連絡ください。本誌 517 号以降、PDF 版を当館ホームページ (<http://www.ndl.go.jp/>) > 刊行物 > 国立国会図書館月報でご覧いただけます。



「名所江戸百景 浅草金龍山」
歌川広重（1世）画 魚屋栄吉 安政3（1856）
1枚 35.6×24.5cm
（『名所江戸百景』＜請求記号 寄別1-8-2-1＞所収）

国立国会図書館月報

平成24年12月20日発行（毎月1回20日発行）
（12月号通巻621号）

発売：社団法人 日本図書館協会 定価 525 円（本体 500 円）